

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成24年度第1回情報教育研究委員会分野別情報教育分科会 議事記録

- I. 日 時：平成24年9月28日(金) 午後2時から午後4時まで
II. 場 所：私学会館アルカディア市ヶ谷
III. 参加者：真下主査、渡邊隆俊副主査、渡辺淳副主査 (Net)、武藤委員、井上委員、
角田委員、及川委員、徐委員
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本職員

IV. 検討事項

1. 情報活用能力に対する取組みの実態アンケート結果について

- ・ 分野ごとに授業で情報活用能力に対する取組みについての実態を把握できていなかった
ので調査を実施した。サイバーFD 研究員から10%程度の回答のため、データとして読
み取れるか調査結果としてどうすべきか検討することにした。
- ・ 回答の多いところは使えるが少数の回答の部分は利用できないため、実施している・
していないの評価はできないと考える。取組み状況や教育内容、大学への課題につい
ては内容で評価できるとかんがえる。
- ・ アンケートの少ないことは、研究や教育、委員会活動などの対応にとられ、直接的に
教育、研究に関すること以外は現実には時間を割きにくい。サンプル数を上げるには学
部長から学科主任経由など組織的に依頼する必要があるのではないか。
- ・ 教育内容の項目で記述された内容は、そのまま参考になるので出した方が良いのでは
ないか。
- ・ 実施している、していないは、実施している教員の意見が中心になっていると思われ、
内容は項目で分類するなど、傾向をつかむことが必要。
- ・ 大学の課題はジャンルをわけてはどうか、組織としての視点、支援体制や環境など。
- ・ コミュニケーションの役割、批判的な見方など訓練が必要ではないか。
- ・ 大学として強いメッセージ、アドミッションポリシーの中で強い戦略をうったえる。
- ・ ツールやパッケージ化され、それにふりまわされて自分で考える力がなくなったなど
の意見があった。
- ・ まとめの方向を整理して分科会の委員と学系別、CCCの委員にA4で1～2枚程度
に概要を、傾向及び意見の多いものや分野特有のものを概説することにした。
(1) 情報活用能力の実践状況について、「情報活用能力育成への取組み状況」の集計
表から傾向を把握し、「教育内容」と相関して類別化した上で、特に参考となる教育
実践の内容を抽出することにした。
なお、「情報活用能力育成を実施していない理由」については母集団が少ないため、
まとめないことにした。
(2) 今後取り組まなければならない情報活用能力の教育について、「今後取り組まな
なければならないと考えている教育内容」から傾向を捉えてとりまとめすることにし
た。
(3) 大学として必要な課題について、「大学として必要な課題への意見」から情報教
育を大学として組織的に取組む上で重要と思われる意見を抽出することにした。

2. 今後の予定

- ・ アンケートの結果を概説してまとめ、報告を Web などに掲載することになっている。